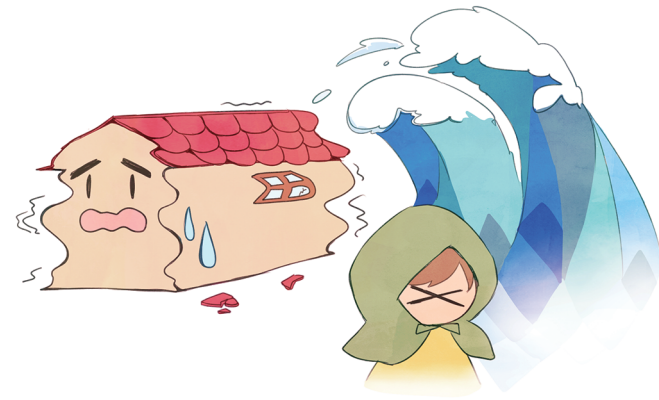
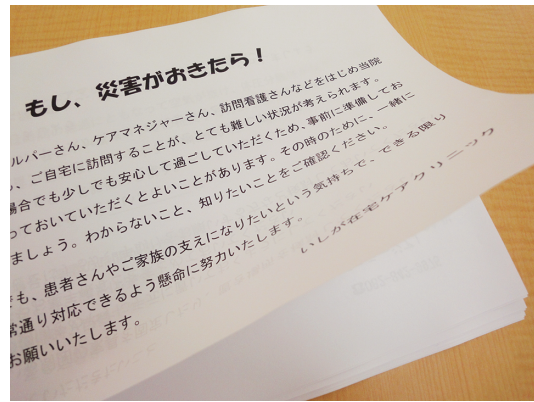


もし、災害がおきたら！



東日本大震災から3年が経ちました。この三重の地も…と言われて久しいですが、その時「ご自宅で療養されている方々が、安心して過ごせるにはどうしたらよいか。」「いつもと同じように往診ができるようになるためにはどうしたらよいか。」これが大きな課題だと思います。

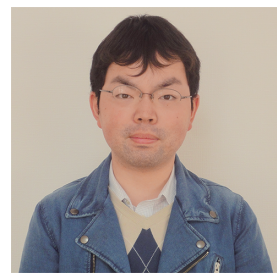
災害発生時にはライフラインの停止、交通網の遮断など数多くの困難が予想されます。その時のために、手始めとして、医療面からみた日頃の備えや医療機器の使用についての確認事項などを書いたものを作成しました。随時、訪問時にお渡ししながら、その時を想定した準備と一緒に考え、共に行っていきたいと思います。「備えあれば憂いなし」余裕をもって、できるところから一つずつしていきましょう！！

第16回 日本在宅医学会大会 in 浜松



平成26年3月1日・2日の2日間にわたり静岡県浜松市で開催された「第16回日本在宅医学会大会」に当院のスタッフも4名参加し、全国各地で活躍されている在宅医療の関係者の皆様と有意義な意見交換ができ刺激を受けました。当院からは「在宅看取りに影響する要因」を調査し、学会で発表しました。光栄にも6題の優秀演題の一つに選ばれ、代表して医師の平山が講演をさせていただきました。今後も在宅医療普及のため当院の活動や取り組みを学会で積極的に発信していければと思います。

在宅医療研修を終えて…



桑名東医療センター
研修医 佐藤 徹

これまで在宅医療に関しては、医学部での家庭医療学実習で開業医の先生の往診に付き添わせていただいたことはありましたが、在宅医療を専門にしているクリニックでの研修は初めてでしたので、1日1日が自分の中では新しい気づきの連続でした。特に強く感じたのは、総合病院での診療の際に入院中の患者様の状態をベストな状態にするように努めているものの、患者様が退院された後の生活に関して考えが及んでいなかったのではないか、ということでした。この1か月間で患者様のご自宅を訪問させていただくことで、自分の中で患者様一人ひとりに対する視野が広がったように感じます。これから病院での研修に戻りますが、この1か月で学んだことを生かして医療者、一人の人間として大きく成長していけるように努力していきます。

最後になりましたが、クリニックの先生方、看護師、事務のみなさん、そして患者様とそのご家族の方々、1か月間本当にありがとうございました。

看護師だより

～60歳の手習い・いまも現役～

Iさんは現在90歳。肝臓に病気をもっておられ、高齢でもあることから、昨年11月、ご本人とご家族がクリニックに相談にみえました。

初めてお会いした時、どこが悪いのか分からないほど、お顔の色も良く、にこにこされ、しっかりと口調でお話しを下さったのを今でも覚えています。それから、ご自宅に往診させていただき、その元気の秘訣がすぐに理解できました。

ご自宅には、素敵な絵や書道がいつも飾られています。あまりに素敵なので、どなたが書かれたものかをお聞きしましたところ…【Iさん作】とのお話に、びっくりしました。60歳を過ぎて、書道を習われたそうですが、その腕前は健在で、今もデイサービスで書かれておられ、老健の文化祭で最優秀賞に輝いたこともあるそうです。日々、楽しみを持たれることはIさんの笑顔の素なのかもしれないと感じました。また、Iさんは、いつも「すぐに来てくれる者がいるから安心」とお話しをしてくださいます。一緒に住まれている長女さんをはじめ、お近くには、他の娘さん達がおみえになり、何かあればすぐに駆けつけて下さるそうです。その安心感が、Iさんの気持ちを穏やかにして



くれるのでしょうか。いつもIさんを気遣われ、寄り添って見えるご家族には本当に頭が下がります。私たちは笑顔でいること、楽しむことで免疫力が上がり、体調が良くなる・がんを抑える力につながると、往診時によくお話しさせていただいています。Iさんは、それを証明すべく、上手く病気と付き合われ、日々穏やかに過ごされています。そんなIさんやご家族に私たちも、癒され、温かい気持ちにさせていただいています。これが、在宅医療の素敵なお話だといつも思っています。これから先もIさんとご家族が笑って過ごしていただけるように、症状緩和や緊急対応等に努めていきます。これからも、たくさん絵や書を書いて見せて下さいね。



Iさんの素敵な作品



先生達と1枚！